

表19

				東大法学部本	三手文庫本	南部家本
1	国	総記	1	×	先年、出雲国史見出雲国風土記抄ヲ見ル、与今合テ国郡所々分明ナリ	先年、出雲国史見出雲国風土記抄ヲ見ル、与今合テ国郡所々分明ナリ
2	意宇	総記	46	×	(以下、和名鈔に関する頭注なし)	和名鈔、此外有能義郡口縫、意宇郡来待筑陽而為郷
3	意宇	郡名	53	聞々耶々「モヤクニ」モ々「ソロク」曾々呂	聞々耶々モヤクニ(ト)ヨムヘシ、古本古事記旧事紀等、此例多矣、モ々曾々呂々は亦モソロクトヨムヘシ	聞々耶々モヤクニ(ト)ヨムヘシ、古本古事記旧事紀等、此例多矣、モ々曾々呂々は亦モソロクトヨムヘシ
4	意宇	郡名	79	×	一以「イチチ」、櫟イチヒ、仮字違余木乎	×
5	意宇	母里郷	80	×	神亀三年詔、紀中无、見和銅六年紀、此間三十三年	神亀三年詔、紀中无、見和銅六年紀、此間三十三年
6	意宇	舍人郷	109	(傍注)瑞籬(崇神)／金刺宮(欽明)	磯城嶋金刺宮(欽明)、磯城嶋瑞籬宮(崇神)	磯城嶋金刺宮(欽明)、磯城嶋瑞籬(崇神)
7	意宇	拝志郷	118	顯宗紀、室壽探掣棟梁者此家長之御心之林也	顯宗紀、室壽探掣棟梁者此家長御心之林也	×
8	意宇	拝志郷	118	×	御心之波夜志(万葉集)	御心之被夜志、万葉集
9	意宇	出雲神戸	133	(傍注)〈墨〉愛子「マナゴ」	愛子「マナゴ」、神代紀	愛子(神代巻)、季云、古事記
10	意宇	忌部神戸	140	式作神寿詞、トモニカンノヨゴトトヨムヘキ証ナリ	神古詞、式作神寿詞トモニ、〈カンノヨゴトト〉読ヘキ証也、〈カンホギゴトト〉読ムハ非ナリ	国造神(ノ)吉詞「ヨコト」
11	意宇	神社	154	×	(以下、神社条に関する頭注なし)	仁寿元年九月庚午朔乙酉、特擢出雲国熊野杵築兩大神並加從三位、貞觀元年正廿七正三位、同五月廿八日授從二位(元正三位勲七等)
12	意宇	伯太川	186	×	伊久比、今誤宇久比者乎 種季	伊、宇久比
13	意宇	通道	204	伊呂波字類抄、割(セキ)、六帖(セキ)、八雲タツイツモノクニノデマノセキイカナルデマニ人サハルラム、堀河百首師頼、サリトモト思ヒシカトモ八雲タツデマノセキニモ秋ハトマラス	割(伊呂波字類抄/セキ)六帖、セキ、八雲タツイツモノクニノデマノセキイカナルデマニ人サハルラム、同マデシハシ、人シリミムヤ、載セコヲトメカ子デソ、デマトナツケシ、堀河百首師頼、サリトモト思ヒシカトモ八雲タツデマノ関ニモ秋ハトマラス	割(伊呂波類抄/セキ)六帖、セキ、八雲タツイツモノタニ「谷」ノデマノセキイカナルデマニ人サハルラム、同マデシハシ、人シリミムヤ、我セコヲトメカ子デソ、デマトナツケシ、堀河百首師頼、サリトモト思ヒシカトモ八雲タツデマノ関ニモ秋ハトマラス
14	島根	手染郷	233	(本文仮名)子モコロ	丁寧「子モコロ 万葉」 *本文仮名なし	丁寧「子モコワ」(万葉) *本文仮名なし
15	島根	美保郷	233	×	*本文仮名「娶(マキテ)」	娶「マ井テ」
16	島根	加賀郷	242	×	神代紀下、星神香香背男、篝火「カヽリヒ」、赫「カヽヤク」、カヽハユキ、加賀国	神代巻下、星香々背男、篝火「カヽリヒ」、赫「カヽヤク」、カヽハユキ、加賀国
17	島根	邑水冷水	280	×	寒水「サムキミモイ、日本紀成務紀乎」	寒水「サムキミモイ」 日本紀成務紀乎
18	島根	和多々島	298	薺頭高、異名杜高、和名波々計久佐	薺頭高、杜高ノ異名、和名八波々計久佐、田識【蛭蛭島条】	薺頭高者、正月元日生長六寸(ト)下(ニ)アリ、多識(ニ)杜高異名、薺頭高、和名波々計久佐、季云【蛭蛭島条】
19	島根	付島	330	×	薺頭高、師説和名鈔ニ薺蒿トカキテ於波木トイヘル草アリ、万二野邊ノウハキヲツミテ煮ラシモトヨメル是也、薺頭高モ薺蒿歟、オホツカナシ、ウハキハ今俗ヨメカハキトイヘル物歟	薺頭高、師説和名抄ニ薺蒿薺蒿テ於波木イヘル草アリ、万二野邊ノウハキヲツミテ煮ラシモトヨメル是也、薺頭高モ薺蒿歟、オホツカナシ、ウハキハ今俗ヨメカハキト云ル物歟
20	樺縫	沼田郷	461	(墨)見牛云、今モ味ナキモノヲ喰ヲニタクト	尔多ハ今喰物無味喰ヲヲニタク喰ト云、又味アリテモ和力ニテ無味ヲモニタクトスルト云	×
21	卷末	軍防	991	團(聚也、令義解)、烽(和名度布比、唐式云置烽之处置火臺、基上挿檣永久之)、式(未詳、官舎ノ名カ)	團、応改團(下皆倣之)、軍防令云、凡軍團大毅領一千人、又云、兵士簡点之次、皆令比近團割、義解云、謂團者聚也、割者分也 烽、軍防令云、凡置烽皆相去四十里、若有山岡隔絶、須遂使安置者、但使得相照見不必要限四十里、和名鈔說文云、烽燧(峯遂二音/度布比)邊有警則舉之、唐式云、諸置烽之处置火臺、臺上挿檣(音厥俗云永久之)、式	團、応改團、下皆倣之、軍防令云、凡軍團大毅領一千人、又云、兵士簡点之次、皆令比近團割、義解云、謂團者聚也、割也分也 烽、軍防令云、凡置烽皆相去四十里、若有山岡隔絶、須遂使安置者、但使得相照見不必要限四十里、和名鈔說文云、烽燧、峯遂二音度布比、辺有警則舉之、唐式云、諸置烽之处置火臺、臺上挿檣、音厥俗云永久之、式